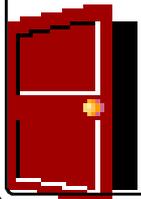


《読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



読書活動への扉を開く！

桑村小学校 令和4年9月5日 文責 渡邊

『読書推せん文コンクール』への応援をありがとうございました！

7月に『読書推せん文コンクール』に、全校で取り組みました。保護者の皆様方には応援をいただきありがとうございました。

本年度、本校では、五感を働かせた「豊かな感性」と「深い思考力」の育成を目指して、豊かな体験活動と読書活動をつなげて、その育成に努めているところです。

読書活動においては、本を読み、その内容を理解し、読書を楽しむというインプットは行われてきていました。本年度は、それを前進させ、表現活動というアウトプットへと発展させることで、より豊かな感性を育むことにチャレンジしました。その一つが、『お気に入りの一冊をあなたへ 読書推せん文コンクール』への参加です。

今回、『読書推せん文コンクール』に応募した第1学年の子供たちの作品の一部を紹介します。

どの作品も、自分が選んだ作品を「伝えたい」という熱い気持ちでいっぱいでした。では、紹介いたします。



【読書に励む子供の姿】

第1学年 もり だいすけ

◆すすめたい相手 おとうさん

◆本の題名『みんなが知りたいほうせきのすべて』（メイツ出版）

このおはなしは、いろいろなほうせきがでてきます。ダイヤモンドやルビーなどいろいろあります。せかいにぜんぶあることはありません。にほんはしんじゅとジェダイとかみつかります。ほうせきはね、ちかにあります。ネックレスやゆびわになります。イギリスでは、かんむりにかざられています。ほうせきはいろいろなかたちがあって、よこながとダイヤのかたちやしかくやまるがあります。

ぼくはしんじゅのことがしりたくてしらべました。しんじゅは、かいのなかでできます。いぶつがひつようらしいです。かいのなかにはほうせきができるってふしぎだな。ぼくのたんじょうせきは、おとうさんとおなじしんじゅです。うれしいな。

※誕生石が、大好きなお父さんと一緒なのですね。最後の「うれしいな」で、文章が締められているところが素敵ですね。すすめたい相手である「お父さん」に、だいすけさんの思いが届くことと思います。

第1学年 たなか あおい

◆すすめたい相手 カニさん

◆本の題名『さるかにがっせん』（ポプラしゃ）

ようちえんのときにせいかつはっぴょうかいでやったおはなしです。いじわるなサルがじぶんかってなことをしたからバチがあたるかなとおもいました。カニがそだて

たのにどろぼうされたからやだなとおもいます。カニのおともだちがやっつけてくれたからきぶんがすっきりしました。カニのけががよくなるといいですね。

ぼくのことをたいせつにしてくれるおともだちのことをたいせつにしたいな。

ぼくはカニさんやくをやっつけてかなしいきもちになったけど、おともだちがいてうれしかったよ。おともだちってすてきだな。

※「カニさん」に「おともだちってすてきだな」ということを伝えたかったのでしょうか。幼稚園のときの生活発表で演じたカニの役のとき、悲しい気持ちになったというところがよく書かれています。悲しい気持ちになったからこそ、「カニさん」に友達の大切さを伝えたかったのでしょうかね。自分が経験したことと読書活動をつなげて、「読書推せん文」が書かれているところが良いと思われます。

第1学年 ひろせ ののか

◆すすめたい相手 ほのかちゃん

◆本の題名『ピカチュウとはじめてのともだち』（小学館）

このほんはわたしがびょういんににゆういんしているときに、ままがかってきてくれました。はじめてのともだちということばで、すぐにほのかちゃんがおもいうかびました。ほのかちゃんは、ようちえんでできたはじめてのともだちだからです。ピカチュウがみんなでりょうりをしているところは、ほのかちゃんとおままごとをしたときをおもいだしていいなとおもって、こころがぼかぼかしました。

さいごにピカチュウがともだちといっしょにほしぞらを見て、わたしもうれしくなりました。ずっとにゆういんしていたから、このほんをよんだらともだちにとってもあいたくなりました。

※ののかさんは、幼いとき入院していて、きっと寂しい思いをしていたことと思われます。そんなとき、お母さんが『ピカチュウとはじめてのともだち』を買ってきてくれたのですね。幼稚園に通うことができ、はじめてのお友達が「ほのかちゃん」。素敵な友達に出会えてよかったですね。「さいごにピカチュウがともだちといっしょにほしぞらを見て、わたしもうれしくなりました。」と書いてあるところが、私は大好きです。ののかさんの気持ちがよく表された表現だと思うからです。一人で見る星はどんなに輝いていたとしても、友達と見る星にはかなわないのです。「ほのかちゃん」を大切に作る気持ちと、会いたいという思いがよく伝わってきます。

第1学年 もり ともや

◆すすめたい相手 ねこがすきなひと

◆本の題名『かわいいこねこをもらってください』（ポプラ社）

ちいちゃんは、こねこをひろいました。でも、おうちアパートでかえなくて、もらってくれるひとなかなかみつからない。こねこをまもろうとしたおはなしです。

こねこをカラスからまもってかっこいいとおもいました。ちいちゃんとおかあさんがんばってもらってくれるひとをさがしているのに、みつからなくてかわいそう。ぼくのうちはいっけんやなので、ちいちゃんがともだちだったらもらってあげたいとおもった。もらってくれるひとがきまったのはうれしかったけど、こねことはなれるのはさみしいとおもって、ぼくもなみだがでた。まいにちげんかんでまわってしてくれるこねこが、ぼくはほしいとおもった。

※ともやさんの優しい気持ちが伝わってくる「読書推せん文」です。「もらってくれるひとがきまったのはうれしかったけど、こねことはなれるのはさみしいとおもって、ぼくもなみだがでた」の表現は、本当にせつない気持ちが伝わってきました。読書を通して、動物への愛が一層高まったことと思われます。

他の学年の作品については、次号で紹介いたします。